

美をくみあげ続けて

HISTORY

●伊賀くみひもの歴史

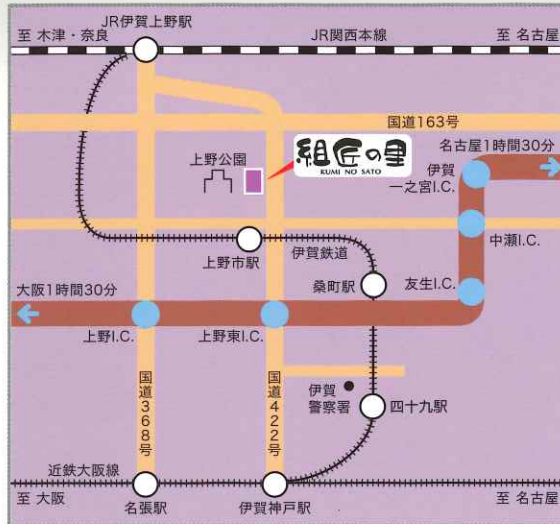
伊賀くみひもの起源は古く、奈良朝以前に遡るといわれ、経巻、華籠などの仏具・神具や、武士の甲冑や刀の紐などに使用するため作られてきましたが、伊賀の地域産業として本格的な発展は、明治中期に廣澤徳三郎が江戸の組ひも技術を習得し、上野市(現 伊賀市)で開業してからであります。

絹糸を主に金銀糸などを組糸に使い、高台、丸台、角台、綾竹台などの伝統的な組台で、繊細な美しさをもつ組ひもを生産しています。伊賀くみひもは特に、高台による高級手組ひもが有名で全国生産の大半を占め、昭和51年には通産大臣が定める伝統的工芸品に指定されています。



R 5 - 0 0 4

産地組合等が実施する検査に合格した伊賀くみひもにはこの伝統マークを使った伝統証紙が貼られています。



三重県組紐協同組合

伊賀くみひも

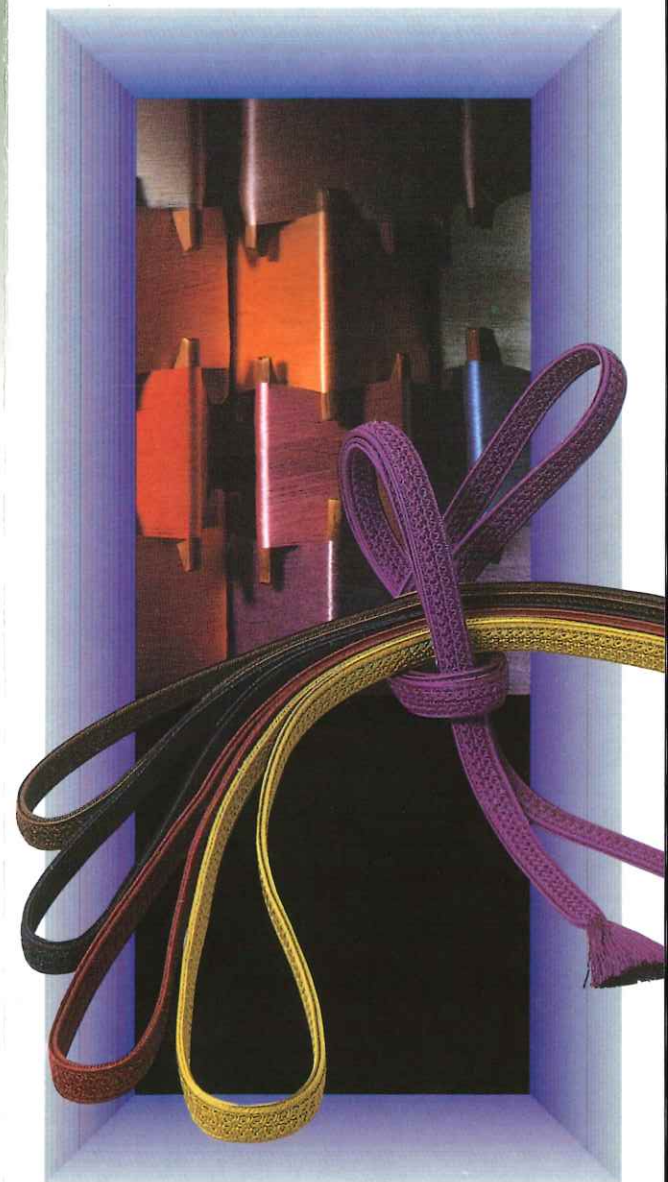
組匠の里

KUMI NO SATO

〒518-0873 三重県伊賀市上野丸之内116-2
TEL 0595-23-8038 FAX 0595-24-1015

[開館] 午前9時～午後5時(休日を除く毎週月曜日休館) 入場無料
ホームページ <http://www.kumihimo.or.jp>

伊賀くみひも
組匠の里
KUMI NO SATO



組匠の里ご案内

KUMI NO SATO

[くみひも道場]

●くみひも体験 10:00~16:00
くみひもで、キーホルダーやプレスレットを作っていました。
お一人様 ¥2,000(税込) (要予約・1回40名様まで)
※少人数の場合は1階で随時体験していただけます。

2F
体験



2F/くみひも道場



くみひも道場体験教室



1F/くみひも体験

[くみひも資料室]

●伝統工芸品(県五産品) 常設展示
●伊賀地域地場産品 常設展示
●伊賀くみひも 資料展示・作品展示

2F
展示



1F/くみひも体験



1F/伊賀くみひも展示販売



[伊賀くみひも販売・体験]

オリジナルくみひもグッズ・小ものを取り揃えています。

1F
販売

PROCESS

●くみひもの工程

美しく染めあげられた絹糸、その一筋一筋が交わり合い、組み独特の風合いと、味わいを醸し出します。古来より脈々と継承されてきた技法。一本一本の組紐に込められたたくさんの方々の心と長い時間。それらが織り成す美しさが組紐の味わいなのです。

きぬの光沢を生かして。

糸割り

糸を量りにかけ、帯締一本分を基準に、作ろうとする紐の本数分の糸を目方で分けます。

染色

作ろうとする紐組の意匠により、色見本に忠実にむら無く染め上げます。

糸繰り

糸割り、染色したかせ糸を座繰りという道具で小枠に巻きとります。

経尺

糸繰りした糸をさらに経尺棒に巻き取ります。経尺棒の外周は四尺、帯締めの一本分に要する長さは八尺ですからこれで丈を合わせ、同時に糸の本数も整えます。

燃かけ 組みあげ 仕上げ

燃かけ、経尺で糸の丈と目方を会わせて糸は八丁というよりかけ車を使って、よりをかけます。

組み上げられた紐は、房付け、湯のし、毛焼き、ローラー掛け等の作業を経て仕上げられ、完成品となります。

TOOLS

●さまざまな組み台



和装には欠かせない組紐。全国に出回る多くの帯締、羽織紐がこの伊賀で製造されています。特に手で組み上げる「手組みひも」は全国生産量の大半を占めているのです。古来の手法を基礎にしながら、現代感覚に合った優美な伊賀くみひもは、昭和51年には通商産業大臣が定める「伝統的工芸品」に指定され、また伝統技術を生かした製紐機による生産、研究も進み、伊賀の地は組紐の特産地として、ますます発展してきました。

伝統の技を極めて。

かくだい 角台

玉数が少なく、とくによりを必要とする紐はこの台で組まれます。組み上げ式です。

まるだい 丸台

丸組みから平組みの紐まで組むことができる最も便利な台で主に組み下げ式で用いられます。

あやたけだい 綾竹台

平紐を組むのに用います。縦糸と横糸との交差によって組まれるため織りに近い組織となります。

たかだい 高台

他の台に比べてたくさんの玉数が使え、組み目が緻密で美しく繊細な柄模様を表現できるのが特長です。

せいちゅうき 製紐機

組み台の原理を機械化したもので、品質の安定した美しい紐を大量に生産できます。